

明治三十五年十月一日受

本第一三二號

一三八五五

本一銀行一覽拂約束之概ニ関スル件

事務書  
牛心

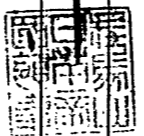
本月二十三日香港監理ノ決ハ所ニ行ハルカ一  
銀行一覽拂約束之概ニ信用上欠リル所ア  
ルヨリ韓國民間ニ於テ其援護ヲ為サハル  
布達スヘキ事此程外部ヨリ全監理一訓  
接到シタニ趣ニ有ク全監理ハ本件ノ如キハ  
直接其援護ニ関係ヲ有スル海關ニ  
何カノ訓令有ク否外部ニ回申シ監  
理ニ於テハ本件ニ関シ何等措置ヲ取  
ストノ事ニ有ク依以及報告ヲ為

明治三十五年九月二十六日

在朝鮮國馬山日本領事館

在馬山

領事 坂田重治



外務大臣田澤武村壽吉郎殿

追テ本件ハ本一銀行ノ利害ニ関スルハ勿  
論貿易上不敷干繫ヲ有スル儀ニ付  
貴公使及報告ニ至

文書課



印刷部

明治三十五年十月三日接登

48

浄書



明治三十五年十月二日起草  
同日發遣

自署有長

信

主任

宣統三年十月六日發遣

送第 〇九五號

自署有長

松尾大尉為理成有長

第一節の一覽拂の素子形 函元件

外務省

在馬山帝小使奉 宣統三年十月 始告

呂々々 相書 宣統三年十月 始告

中書 〇

(宣統三年十月三日發遣)



少カクシテ如家ヲ興ヘシモノハ百之六  
五の故也

明治三十五年九月廿七

任所 欽事 佐 平 松 代 理

欽事 佐 補 佐 佐 田 文 三



小島大進男爵小村善太郎

此ノ公文ノ内容ニ依テ、茲布シテ極ノ旨ニ

在韓國仁川港

日本領事館





三十五年十月八日接受  
別紙

明治三十五年十月八日  
同 日 發 達

明治三十五年十月八日發送済

主任

通商手続

様卷

第 一 号

珍田総務長官

坂谷大蔵総務長官宛

第一銀行鋪主多店に於て発行せらるる紙幣

外務省

一覽拂銀行券、其の通用禁止命令發布

関する件、今般在仁川帝室領事館事務代理

より別紙に通り報告有る事、其の旨を記し、

自ラ新長紙發行禁止命令、如何に

別紙様卷第二号を傳寫し上稿せし

大臣 王

明治三十五年十月六日 起程 同日發遣

明治三十五年十月六日發遣

主任

淨書 抄

三十五年十月八日接受

通商局長

挿添

機密送第770號

小村大臣

在韓 林持命全權公使宛

銀り方通用禁止令令之閣下件

今致我第一銀行韓國支店於之發行セル在記

外務省

各式一第挿銀り方流通之閣下韓必政府

後方ノ通用格リ韓必止ルモノニテ其區域狹隘ナ

ルヨリ將來一ヲ憂之思スルノ理由ツハ其流通禁止

ノ令ヲ布キル起ル有キ事ナキ銀り方發行ノ多クハ

素直ニ政府監督ノ下ニ於テ為スモノナレバ通用區域ノ

廣狹拘ハズ何等モ危險ノ虞ヒナキハ勿論

氏々信用シテ互ニ支障取リヲナスコ者リ政府が于件

レテ之レヲ禁止スルハ其ヲ不穩劣ノ所至ノミナラズ

貿易上、好害ヲ興フルヲ解ナ  
 ナラサル義ヲ明セヨ  
 朝鮮國政府  
 駐在  
 外務省  
 外務省

外務省



明治三十五年十一月四日

郵政局

受第 一三五四

公第 五十五  
轉送各埠第一節子友子仲五  
子形ノ使用ヲ禁止ノ件

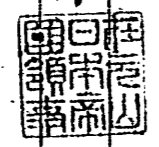
右種第一節子友子仲五ノ費用ニ係ルモノ  
或一決押五日子形ノ轉入同ハ各埠  
方ニ奉シ轉入政府ハ之ヲ禁止スル旨書函  
監理ニ訓令セリ候事 監理ハ答申未ダ  
旨下一節子友子仲五ノ有之ハ仍ホ其  
理由ヲ探聞スル元來該種第一節子  
行ノ附リノ責任ニ係ルモノニテ日本  
ノ制知ルモノニテ之ヲ一萬一ノ實行  
整ニ戒ムモノニテ之ヲ一萬一ノ實行  
在韓國元山港 日本領事館

ハ未夕何等ノ人々ヲモテセザリト云フ  
手形ノ友子日米商議ナクハ轉入相  
三未夕之ヲ使用スルモノ毎之ハ日  
轉入ノ取引上ニ敢テ支障ナク振  
交據ル利合アリトシ上ハ日轉  
有之ル能ハス候事 形ノ流魚上ニ毎  
寄テ蒙ルハ千様トモ信テ味改製  
其敬具

明治三十五年十一月六日

在元山

副奉後代出山三雄



外務大臣野村素太郎殿

文書課長  
明治卅五年十月十六日接受  
9  
文書課長

明治卅五年 十月十五日 起草  
同 八月廿一日 發遣

事務局長  
主任

送第 一〇 號  
朝鮮總督府

限令大韓總督府

韓商於光緒二十九年通商章程

不件

三十號 十月廿一日  
外務省

第一節 韓國支那之通商章程  
式一覽 拂銀以當之 罰金通商章程  
中 我國一軍之令 般在元山 帝也 總事 倭事  
協理 通商章程 通商章程 通商章程  
省 日 通商章程 也  
(昭武第一等名手 昭武第一等)

第1752號

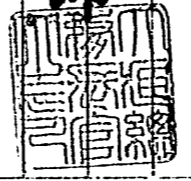
總書

明治卅五年十月十六日受  
通商局

原申第二一五號

本月、日付樺密送第一二六號、以第一  
銀行、韓王支店、於行禁行、銀行券、  
對之全國政府、通用禁止命令、發布  
之、策之取消、方駐在公使、訓令、於  
越了、承、在彼、我貿易上、利害、關係、不  
鮮、義、下、將來、其、可、然、口、方、亦、本、度  
此、級、口、回、答、身、中、途、也、也  
明治卅五年十月十五

大藏總務長官法學博士陵谷芳郎



外務總務長官於田捨已殿

大藏省

3-1199

0016

水戸、  
東京、

大臣

総務長官

電信課長

主管

電受第五三三號 明治三十五年二月三日 午後九時四分 發

小村外務大臣 駐米臨時代理公使

第二、ハ、  
度支部ハ主トシテ本邦人ニ對スル支拂金  
之定メおシ檢査多ク是レ本邦ノ利益ニテ  
一、銀兩ヲ借入ルル事同大旨ニテ  
付本官長ニ對シテ第一、銀兩一覽書

海通禁止後、  
支那ニ於テハ、  
會社ニシテ、  
請フ

外務省

要付

15

3-1199

0017

本館  
新館  
新館

大臣

正

總務長官

印

電信課長

印

主管

印

正

電受第 六

號

明治三十三年一月九日午後三時二十分

發

小村外務大臣

兼臨時代理使

茅三郎

第一銀行一覽拂券禁止ノ撤回ニ係リ  
廷ニ總務務司ニ意見ヲボメクルヲ兼  
タルニ甘本館ニ同友ニ對シテ  
代用物ヲ禁止スル理由ナキトシテ  
同友ニ同

外務省

ノ意見ヲ辨廷ニ報告シタル結果ニ係リ  
ハニッ撤回スル時一覽拂券ヲ方ケテ  
用セシメ且ツ是ノ便ニ付テハ  
訓令ニテ外部ヨリ昨日各港  
官ニ付年ニハ郵便電報ノ  
後者カニ正式ニ交換セシ  
ツ各港領事ヲシテ監理ト  
ニ域擴張去テ有セシム  
太第一銀行本店ニモ申  
簡ケツ書フ

庄

15  
才一紙

貴籍拜見仕矣陳ハ當銀行韓國支店ニ  
於テ發行致矣一覽拂銀行券禁止令  
撤回ノ件ニ關シテハ我公使ニ於テ御盡力  
被下矣結果韓廷ハ談禁止令ヲ撤回スル  
ト同時ニ一覽拂銀行券ヲ妨ケナク通用  
セシメ且流通ノ便法ヲ講スベシト満足ナル  
訓令ヲ外部ヨリ各港監理ニ下シタルニ付キ  
度支部ヲシテ談券ヲ正式ニ受授セシムルノ  
便法ヲ協定シ且各港ノ領事ヲシテ監理ト  
ノ間ニ談券ノ流通區域擴張法ヲ講セシムベシト  
在韓國款原臨時代理公使ヨリ御電毅有之  
矣旨御示相成難有拜兼仕矣右ノ如キ満足ナ

東京

株式第一銀行

ル結果ヲ得矣ハ全ク貴大臣ノ御訓令ト公使  
ノ御盡力トニ依リ矣儀ト深ク奉謝矣右拜  
答如此ニ御坐矣敬具  
明治三十六年一月十二日

株式會社第一銀行  
頭取 澁澤榮一

小村外務大臣閣下

手書  
印

正務局

明治廿六年一月廿一日受 通商部

發第 六 號

九一九

第一銀行一覽拂通用禁止撤回、件

去九月和文第一號電報ヲ字及報告置  
 通リ容臘李容炯一件、其聯上、本及ヨリ韓  
 廷ニ要求セル箇条中一覽拂券、禁止撤回、  
 韓廷ニ於テ速ニ裁、希望ヲ容、本日八日附ヲ以テ  
 別第訓令ヲ各港監理ニ下シ先告翌九日外部  
 大臣ヨリ通知有之矣、就テ、内閣了相成矣如ク  
 右訓令ハ單ニ禁止ノ撤回、止ミテ、進テ流通ノ便  
 法ヲ求メ内外商民ヲテテ故障無ク通用セル可シ  
 ト、命令、有之裁、希望、一歩ヲ進メセル、有之ハ  
 例、本及、中央、於テ多ク大臣ト、同、該券ヲ正式  
 流通セル便法ヲ講シ同時ニ各要市場港  
 口、於テ韓四地方及領事ト、同、因様ノ便法  
 相成定セル事、電報致置矣、付在古了知  
 相成定此如別紙相添及報告矣、敬具

明治三十一年一月十日

在韓

臨時代理公使 萩原守



外務大臣 野村吉三郎 敬

寫

延八港一市

延放者上年九月間以日銀の兌換券發行  
範圍一事既經訓飭而現由日公使委清  
等碍使用不可各通融為法審特函佈  
尚須  
照亮善辦俾內外民商任便流行是盼

日本公使館

3-1199

0021



急

明治廿六年一月廿三日

明治廿六年一月廿三日  
同 年 八 月 八 日 發 遣

書 長  
明治廿六年一月廿三日

別紙

94

海軍省  
海軍大臣 原 田 大 吉

近衛高子

陸軍大臣

坂田 主任

外務省

坂田大佐 陸軍大臣

陸軍大臣 坂田大佐 陸軍大臣

禁止撤回ニ係ルニ係

外務省

分一親の陸軍大臣 陸軍大臣 陸軍大臣  
 記名式一覽 拂銀の事 対先返申  
 禁止撤回 義事 禁し 今般 在 陸軍  
 時代 陸軍大臣 坂田大佐 陸軍大臣  
 可台 右 坂田大佐 陸軍大臣  
 坂田大佐 坂田大佐 坂田大佐  
 日 坂田大佐 坂田大佐 坂田大佐  
 (坂田大佐 坂田大佐 坂田大佐)

株式會社第一銀行便成

明治 年 月 日

先知の...  
 ありしを...  
 文ス

東京...  
 銀行...  
 金...  
 金...  
 金...

本店電略略一イ

電話番號  
 東京 三三九〇番  
 大阪 三三九〇番  
 神戶 三三九〇番  
 横濱 三三九〇番  
 名古屋 三三九〇番  
 京都 三三九〇番  
 福岡 三三九〇番

15  
 神銀

3-1199

0023

大臣

總務長官

電信部長

主管

田中 義典

電受第三二

號

明治廿一年一月廿三日

發

小村外務大臣 秋原監獄長公使

片於三聯

才一銀行 電掛 岩通用 禁止 撤回  
訓令 既電 文 於月八日 付 以 行  
各 港 監 理 者 等 之 九 日 外 務 大 臣  
ヲ 奏 上 及 之 情 之 由 及 之 通 告 下 城 へ テ

外務省

十三日、五、啟文、以、同、大臣、右、通  
知、難、カ、申、進、上、者、洛、東、江、不、法、運、稅  
ノ、廢、止、モ、亦、不、日、注、以、ス、ル、為、期、シ、タ、ル  
ニ、四、五、日、以、前、難、カ、申、進、上、者、後、ニ  
テ、中、中、海、一、度、之、右、訓、令、ハ、下  
ノ、注、許、可、ヲ、得、ス、レ、テ、外、務、大、臣、ノ、奏、上、シ、タ、ル、モ  
ノ、其、其、當、テ、注、許、可、アリ、タ、ル、ハ、難、カ、ナ、レ、ド、モ  
ト、シ、テ、外、相、ヲ、攻、撃、ス、ル、若、シ、ク、ハ、後、ニ、後、訓  
令、ノ、奏、上、シ、タ、ル、ハ、或、ハ、電、報、ヲ  
以、テ、及、對、ノ、訓、令、ヲ、奏、上、シ、タ、ル、モ、ハ、九、日  
由、及、之、注、日、未、外、相、及、次、及、ト、會、見、シ、テ、  
不、都、合、ヲ、責、メ、具、シ、テ、未、ノ、後、以、テ、迫、リ  
タル、モ、及、對、者、ノ、李、宗、弼、及、其、一、味、ノ、者、等、ニ

レテ五ツ口実トシテ越外部ニ復讐セント  
 スル魂膽アリテ外相松樺ニ地位ニ立テ  
 リ元來禁止訓令ハ事實ニ行ハレザル  
 カ故ニ至撤廢モ亦實際ノ利益ハナケレ  
 ドモ片四得タル撤田訓令中ニハ誘導ノ  
 流面ヲ計之トシテ命令之ヲ如ク居ルヲ以テ  
 ニシテ松樺トシテ我々皆テ祖祝其外  
 公金ノ出納ニ公然使用セシムル途ヲ示テ  
 得んモノトシテ甚シク重要視シタルモ事情  
 前ホノ次方ナレバ付キ我々公吏ヲ以テモ  
 撤田ヲ始セラレタルノミニ満足シ共實好ニ  
 関シ此際外相ニ迫ルヲ見在ス方我々ニ利  
 益ナルモノハ此レは意見立訓令ノ法ヲ

外務省

不法撤田ノ件ハ既ニ撤田ノ由未アルヲ理由  
 トシテ未感ヲ表シ我々為長ヲシテ  
 紀友走ヲ産山ニ件ニ行キ監理署ニ渡  
 ス撤田ノ動セシムルハ實際ニ廢止セラレ  
 ルニ至ルニシ猶ホ産山領事ト協議ノ上上申  
 スベシ  
 幸々東駐在公使ハ陰曆一月三日迄ニ出度ス  
 ルトニ言マリタルハ外部決及テ承知シ  
 タリ

明治 年 月 日  
同 年 月 日  
起草 發遣

あん  
あ  
あ

あ  
あ

あ

主任

電送第三五號  
明治廿一年一月廿日  
庚子時二刻

主針

和歌山県立総合資料館  
資料館  
資料館  
資料館

用 手 林 市 上 中  
仲 介  
市 立 見 出  
外 務 省

う 可 十 九 日 事 業 課  
う 可 十 九 日 事 業 課  
う 可 十 九 日 事 業 課

や 敷 じ ん ち ゃ ん 中 心  
や 敷 じ ん ち ゃ ん 中 心  
や 敷 じ ん ち ゃ ん 中 心

事 業 課 知 事 林 市 上  
事 業 課 知 事 林 市 上  
事 業 課 知 事 林 市 上

3-1199

0026

五斗

五斗

五斗

新島嘉平次郎

少村左兵衛

晴久(沖田三郎)

新島嘉平次郎

申込ニシテ一銀リガ之ニ應セザル為メ

甚ク請ハ成ルヨリ素ク一使掛券係

外務省

通解林赤ノ内合ヲ出サシムモ内合、右ノ既

脱セリトノ報、其ノ内合事案甚ク終ハシナモ

為念申報ス者請ヨリ、申込ハ、如クナ


ル費途、自充ツルモノナリヤ其内容等

取柄、口電セラルル

電報第三號

印

印

大臣 

電信課長

總務長官

主管以の



電受第四九

號 明治廿一年一月廿九日午後二時一分 發

小村外務大臣 林原臨時外務大臣

才於九師  
省長於三師之案し越外部より復生  
得七七一キヨウヲ陸軍部日中人博覧會通  
ヲ第一派所支店長二十二カ条ノ借款  
ヲ申込ニ日支店長一覽掛券ノ禁

外務省

止解禁ニ由ラハ右借款ヲ遂行スヘシト  
ノ口約アリ然レニ解禁ノ公文并ニ訓令發  
セラレタル前後支店長ハ本店ニ協議ノ  
結果之ヲ謝絶シタルヲ以テ右解禁ノ訓令ハ  
停止セラレタル云々數日前前奉尾ヨリ右友  
ニ申付テタルニ付右友ハ若シ奉尾右様  
内容ナキニテト信ニ罪人ヲ取調クタル  
ニ右借款ノ目的ハ奉尾等ノ管轄ニ在  
價同換ニ買取リタル木浦、三鷹、島  
敷、万田ニテ外部より買取リタル契約  
成立シ之ニ對スル決意ヲ得ルニアリテ奉尾  
等ガ云フニキ越外部が管中ノ権力回  
復ノ目的ニ使用スル奉尾ヲ管マサルヲ判

然し支店長、口約、猶スルモノモ、其際、ア  
 らズ、岸尾等ハ一覽、拂解禁、案スル外  
 部、返答ヲ利用シ、且ツ趙外部ノ経済  
 不況、意ヲ口實ニ、本官ヲ誘惑シテ、其意  
 ヲ達セントスルノ判断ニタリ  
 一覽、松岩解禁ノ決行セラレザルハ、既  
 電報セル如ク、及支那ノ事、アハル事、案、細ノ幕  
 下ニ於テ、反對論アリ、且ツ李ガ自己ノ計画  
 ナル、次第、其ノ目的ヲ達セントスルニ、趙  
 外部、復讐セントスル意思トシ、甚キ大  
 官連ヲ説キ、官中ノ議論、一度シタリ  
 ニ依リ、而シテ、解禁反對ノ議論、今猶  
 盛ニシテ、兩三日、前趙外部ハ、本官ニ与  
 外務省  
 タル公文并ニ訓令、寫ノ返却ヲ求メ、又  
 外部協弁ハ、陛下ノ命令、令ヲ趙大臣ニ誤  
 リ傳ヘタリト、口實ヲ以テ、昨日、趙任セシ  
 ヲラ、本官ハ、昨日、外部大臣ニ、面會、上  
 我ハ、当、趙右解禁公約、履行ヲ迫ラザ  
 ルヘキ旨ヲ、趙ハ、曰、大臣ハ、同下ノ情勢、於テ  
 我ハ、此、趙、及、其、口、理、マシキ、ナリト  
 答、ハ、タリ



大臣

總務長官

電信課長

主管 政府の 長

電受第五三

號 明治廿一年一月廿一日 午後五時五分

發着

村松次郎 外務省 事務

外務省 事務 村松次郎 外務省 事務 村松次郎 外務省 事務

内ノ反對ヲ受テ自カラ責ヲ引キタ

明治廿六年一月卅一日發

發第 一四 號

受第 一三一〇 號

第一節の二覽拂子形通目禁止格四ノ通目  
去送付

本日付の受第 一三三〇 號の電信及十百老若六ノ号  
多共票流交第 一節の該子形撤田ニ案た  
部ノ公文ニ別裁ノ通リ者十三三ニ格ヲ橋交流  
付七考考ノ正官並其ノ辭去  
明治廿六年一月廿九日

主神

臨時公使兼參事



外務大臣兼参事村壽太郎被

日本公使館

高

敬覆者前稿

台函以第一銀行一覽拂子形禁止令撤消一  
事勉准

來臺業經函飭各口此現銷田禁令自應遵辦  
至每年六月及十月二面調查實際狀況一節既  
經協議毋庸贅論由前章十日起辦理為妥  
前派魚粉及面粉系  
謹茲又附陳並頌  
勳安

趙秉式頓

一月十日

再派東江撤稅一案續擬奉閱

日本公使館

大臣

總務長官

第15/10/10

明治廿六年一月廿一日受

通商局

機密第一二三號

政務局

第一銀行一覽掛發給通用之票之件

本件之票之者ハ外部大臣ニ翻譯官ヲ派シテ禁令  
 撤回ノ旨各港監視ニ訓令シテ趣キ右訓令ノ寫ヲ本  
 官ニ手交セシメ次テ十三日ハ又テ以テ撤回ノ通知ヲ候  
 付九月日知文第三號ヲ以テ不取敢電票及ヒ各  
 港領事ニモ在趣通知及置尚ホ本月十七日李友韓  
 帝陛見ノ際ニ於テ在撤回ノ義ニ突シ謝辭ヲ述ハ  
 免事ト有之矣處本友カ在撤回ノ通知對シ各港  
 領事ハ未タ此理ニ該訓令ノ到達セ共昔テ電票  
 ニ来リト向モ有之候ニ付外部ニ相確ニスル結果意  
 外ニ在訓令ハ未タ差送セ共昔テ承知スト同時ニ該

在韓國日本公使館

撤回ニ在レ一場ノ議論政府内部ニ起リ再ヒ撤回ノ  
 訓令ヲ取消シタルヤノ説有之内容相確カ候處  
 大要左通り有之矣  
 趙外部ニ本件之票ハ日臘最日ヲ候テ奉報ス可ク  
 亦ク聲明致共ニ付本友ニ其後解結ヲ促シ共事  
 有之ハ然レ趙近頃韓帝ノ入侍ニ能ハ共カ為ノ  
 這般ノ要務ハ恠并朴鎔和ヲシテ不奏セシツテ  
 リニ去ル七日朴韓帝ノ命ヲ傳之テ依リ撤回ノ訓  
 令ヲ差送ス事ト相成共在在訓令差送前ニ於テ朴  
 再ヒ韓帝ノ命ヲ以テ趙ニ去ル所ナリ内密ニ其  
 差送リ差止メ十三日李友ニ撤回ノ公文ヲ送り後  
 朴カ該訓令ヲ差押ヘ差送セシメ共聞キ其不却合  
 ヲ查メレ朴韓帝ノ命ヲ以テ此時既ニ該撤回

訓令ハ外部大臣ノ失計トシテ政府部内及ヒ官中  
ノ攻撃甚キ際ニテ朴ニ撤回ノ勅命ヲ趙ニ傳ヘ  
ニ事ナシト云フニ至リテ趙ニ其立場ニ當惑ス場合  
ト有リ何如ト云フニ能ハズ云々此説ハ趙カ塩川通  
譯友ニ面談セシ所ニ有之矣

一説ニ該訓令甚送、後韓帝ニ朴ニ内告ヲ傳ヘテ  
該訓令ヲ取消セシメタリト、事ニ有之何カ事實ナリ  
ヤ目下、處部同ノ屬ニ候ト云何シモセヨ該撤回カ  
無効ニ歸スルニ事實ニ有之矣

要スニ本件ニ對ス我要求ハ我欲以テ仰リ云者トシ  
ニ外部者局者及ヒ韓帝ニ極メシ先ニ相違無之  
即チ總統務司ノ意見ヲ察シ且六日及七日、芳リ  
狀況ノ報告ヲ徵スル條件ノ下ニ撤回ヲ行ヒタリ

在韓國日本公使館

韓帝ノ命ニ仰リタ事分ルナレ共者國大友中ニ  
事理ニ通曉セテ筆多ク一箇紙片、有價、通  
用セラレテ甚モ妨ナキ狀況ヲ見テ一往無杯ノ感  
ヲ抱キワ、アリシ頃ルニ事實ニテ所謂ハ露派ノ  
抑厄非常ニ殊ニ之ヲ不快トシ且吾國人中、該差  
亦滿ノ流連ヲ見テ猜忌的惡感情ヲ多少者  
因テ送還セシ形跡ニ有之候際、解林某ノ聲ニ  
端ナリ氣焰ヲ生テテ韓帝ヲ勸カシタリ若ト見テ是  
支可成之候本件ニ對シ送還ノ旨ニ有力ト反對者  
ニ李容淵有之ハ安此際李、歸國仰リ反對  
ノ誣論一層熾盛ヲ加ヘ甚シキハ外部大臣、撤回  
訓令ヲ目シテ李某ノ行為ナリト述ビ誓ノ言ヲ敢テ  
スニ至リ其同云李が趙ニ對シ彼變態的魂膽无

文リ趙... 弘ト四曲ノ改叙等ニ施ス術ナキ境遇ニ沈淪  
 シ本友ヲ趙及ヒ朴ニ對シ其不却否ヲ責ルモ首記  
 ノ始末ナカ故毫モ要領ヲ得サレシト云韓帝ハ  
 内者ヲ趙ニ付テ本件ニ實シ本友ヲ如何ト交渉  
 フナスモ一切之ヲ取合フナリ趙ノ手ニ之ヲ食止ム  
 へ申付テ事ト有之ハ趙ノ斯ク本友ト韓  
 帝及ヒ政府ノ向ニ立テ弘ト板扶トナリカハ本  
 友ニ其内情ヲ打明ケサル上撤田訓令ノ通ヒ公文ヲ  
 撤回セシトテ誠ニ別紙ノ通リ私信ヲ送リカハ本友ハ  
 地川通譯友ヲシテ斯ク九文書ニ韓政府ノ誠信ニ  
 實シ之ヲ接受スル外都大臣ノ職責ヲ向フナト  
 ナリ意ハ結果ヲ来スヘキトノ意味ニシテ即時返送セ  
 ノ候

在韓國日本公使館

本友ニ有之ハ此際外都ヲシテ撤田ヲ責ルセム  
 ニシテ何等カ強カク困テ外無之ハ一面自キ事トモ  
 無之且及對ノ氣焰ニテ憾ナク際之ト争ニ徒ラ  
 本件ヲ困難ナクシテ有之ハ本友ノ究ニ南帝  
 政府カ公文ヲ以テ撤回ノ面知ラセシト云フナリ此  
 際韓廷ノ氣焰ヲ避ケ時權見斗ラレシ事得業ト  
 云存セシ趙ノ如キモ本友ニ對シ早晚撤回スヘキモ  
 今差當リ之ヲ迫リテ大勢ヲ疾クシテ只自分ノ地位  
 ラ危フセラレノミニテ其初キ事付テ差控ヘラレ  
 シキ者懇々申末ハ本友ノ事情ニ有之即チ本友  
 茲ル公文第一三号ニテ大ニ大為電稟及ヒ久波等  
 二有之云  
 此ハ電稟送ル者申進メ候具

明治三十一年一月廿六日

在韓

臨時代理公使 藤原守一



外務大臣 野村嘉平 印

在韓國日本公使館

3-1199

0035

高

敬啟者以知子形房一事既經函覆  
存案查該案有矣貨物係通項為人心  
趨向乃無室碍不可但以一之誤有拂眾  
情茲特函佈尚望  
誼諒所有前函繳付去手以便改錄為要此頌  
台安

趙秉式頓

一月二十二日

日本公使館

3-1199

0036

素地

大臣  
山

總務長官

電信課長

主管

Handwritten signature and stamps

電受第五七 號 明治廿六年二月二日午後五時三十分 發

小村外務大臣 駐英公使

才一銀一覽拂考、開スル拂延内、  
反對論、手後益、勢煽、高ノ政、  
使族、ヨリ京城内、言氏會合シテ反  
對、公開演説ヲ試シ又漢城判尹ハ

外務省

該考ヲ接受スルモノハ嚴刑ニ受スル旨  
ヲ告示スルニ對リ同報ハ、此ノ事力  
無余、取付ケテ、尙ホ他ニモ迷惑ヲ蒙  
ルコト、右拂延、以テ動、李、密、細、カ、計  
画、中、ニ、居、ス、ル、中、央、報、以、設、立、及、ビ、成  
常、費、行、ニ、對、ス、ル、漢、地、ヲ、作、ラ、ン、為、シ、煽  
動、セ、ル、ニ、基、テ、ハ、既、非、ノ、外、又、右、地、一、ニ、外  
交、友、及、ビ、信、託、預、目、ノ、法、語、ニ、授、ハ、ハ、ウ、エ  
イ、ハ、ア、一、ハ、暗、ニ、李、ニ、對、シ、後、報、以、右、者、禁、止  
ノ、注意、ヲ、與、ヘ、居、ル、モ、ト、信、セ、ラ、ル  
右、報、以、右、者、流、通、禁、止、撤、四、ニ、果、シ、テ、ハ  
既、非、告、セ、ル、如、ク、陛下、ノ、命令、ニ、テ、  
外部、任、意、撤、四、公、約、ヲ、友、ニ、與、

3-1199

0037



且新公始ハ明治九年 陸軍省規 第四款  
 ニ基クテ之者ノ措置ナレバ 中友ニ來ニ在  
 公ハ信ヲ示シ 陸軍省 自マラントシ  
 クルニ六ダ 趙 外部 係工ヨリ控ヘ居  
 リタルモ今ヤ 趙 兼式ニ解任シタルヲ以テ  
 遠慮ナク公ハ信ヲ示シ 陸軍省 自マラントシ  
 ニ在公使ニ對シ 彼ガ昨年 外部 對シ  
 漢領ノ一 若ニ日本政府ノ保護ナシ  
 トシ 理由ノ下ニ之ヲ授クニ 拒ムルヲ考ヘ  
 シタル 縁故アルヲ以テ 左位上 斯ニ考ヘ  
 シ 板田 センターヲ 授クニトス 右ニ對スル 意見  
 水電所ノ 授ク

外務省

3-1199

0038

正

立紳

秋原修好氏

第十五編

少村氏

略号

電送第五〇  
九月三日

光緒二十五年号中修好氏規

中四款トアルハ九款ノ誤リナラム

一吹紳券係通、付ル紳廷ノ妨

外務省

得手段ハ極メテ不法ナルニ付之レカ為メ才

一銀リカ蒙ルハ中修好氏ノ紳廷ノ責

任、内々ニキコトモ言明シ申言見通り

林止令撤回、付十分者力セラルベシ

備々修好氏規九款

西武、通好

ヲ信多ク然レハ人氏者自己ノ意見、修也、修也、修也

ハシ、西武官吏宜之、其修乃コトナシ又、修也、修也、修也

限シテ、或ハ林止令ニ付ス

大臣

逋者

在

總務長官

主管

電信課長

電受第 二〇 號 明治廿六年二月三日 午後七時十分 發

山村外務大臣 兼 三塔領事

第一銀行一覽拂手形ヲ授受ス者ハ  
嚴刑ニ處ス旨漢城府判事ヨリ發  
令セシ付本官直ニ右發令概圖方ニ  
關シ嚴重照會ヲナシ且判事ニ意見ノ

外務省

上大臣ニ請同セシ右發令ハ度支及内部  
兩大臣ノ訓令ニ依リシモノニ付概圖シ難キ  
趣ヲ以テ頑トシテ本官ノ要亦ニ應セザル付  
不逞已本件ニ關ス處置方帝國公使  
ニ上申セリ右發令ハ為韓人ハ大ニ懼  
レヲ懷キ第一銀行ニ對シ一覽拂手形  
ヲ換ヨ求ムモノ多シ本日既約ハ萬  
円ヲ各換ヨリ右交換方ニ付不都合ナキ  
程銀行主任ニ注意ヲ加シ警戒中ナリ  
目下、處各換準備金ニ差支ナシ委  
細郵便

通電  
事務

大臣  
正

總務長官

電信課長

主管  
座

電受第六一號 明治三十二年二月四日 午後十時五分 發

村松右大臣 秋原臨時代理の便

第二十八號

才十五號 貴電に對し本官は韓王故に  
對しは訓示を通り聲明し且右韓廷は條  
約違反條約條規九款及同附條七款に違反ス  
公約無視ノ行動ヲ生ズ損害ニ對シテハ

外務省

時直ニヨリ反報行為トシテ韓國政府ノ官  
有財産ヲ差押ス又條約以外ノ特權ヲ  
自ラ行フコトアルニキ旨ヲ聲明シ又本日條  
約格同ト本件ニ對シテ唐見シ之ニ從  
量ニ自己ノ韓廷ニ提出シ意見ヲ結局  
決行セラレサルヲ遺憾トシ且相當ノ反報行  
為トシテハ曲圖局ノ封鎖ヲ以テ最モ危害  
ニシテ且有害ナルニキ旨ヲ答ヘタリ

3-1199

0041

大臣 山

總務長官

電信課長

主管 山

電受第六二號 明治廿五年二月四日 午後五時五分 著

小村外務大臣 主幹 萩原臨時代理

本日露公使ト、會見ニ於テ本官ハ第一  
銀行券ニ對シテ韓廷ノ行勅ハ條約ニ  
反公約無視トシテ其責ヲ同ヒタレヨリ  
相當ノ反報行為ヲ行フノ已ヲ得サルニ

外務省

至ラントスル次芽ヲ述ビ且同公使ハ昨  
年韓廷ニ對シテ諒義ハ日本政府ノ保障  
ナキ理由、下ニ備露國人ノ僥倖トシテ  
受取ラシメ難シトノ聲明ヲ與ヘタルハ今日  
尚ホ韓廷ヲテ諒義ノ流通ヲ禁止セシムル  
原因トナリ居ルヤノ疑ヒアルヲ遺憾トスル  
旨ヲ述ヘタルニ彼ハ自己ノ聲明ハ本官ノ  
言フ如キ最善ナキニト辯ニ世際我態度  
ニ反對希ハ旨ヲ示シ且ツ和見トシテ我カ  
臣民ノ白銅債ヲ偽造シ又ハ第一銀  
行ガ百萬円内外ノ借款ヲ前後幾回ニ  
韓廷ニ供與シタル例ヲ引キ我レノ韓廷  
財政ニ與ス措置ヲ非難シタルニ付キ本

官ハ一々之ヲ辨駁シ結局彼ハ世際韓廷  
 ガ該券ノ授受ヲ嚴刑ヲ以テ罰スルハ條  
 約違反トシテ同意スル所ナシ自己ハ存國  
 ノ訓令ナキ以上ハ存件ニ主テハ好マサルニ  
 付東京若リハ露京ニテ日露兩國同被  
 議ノ末自己ニ訓令ハ様致度方ヲ若一  
 タリ右露公使ノ詰詰ハ彼カ隱然韓廷ニ  
 助言ヲ與ヘ該券流通ニ反對セシメ居ルヲ  
 証明スル付閣下ニ於テ露國ニ對シ我地  
 位ヲ辨明シ韓廷ノ不都合ヲ説示セシムコト  
 ヲ請フ

外務省

伝  
流

大臣  
山

總務長官  
松

電信課長  
ノ

主管  
山

電受第六五 號 明治廿二年二月五日 時五分 著

小村外大臣 事務 松本實久公使

外務省  
タリ松ルニ佛人側ニ於テハ 岳林禁令ニ基キ  
京城仁川ニ於テ漢方ノ引換及調子望ノ  
了出ヲナセルガハ一浪行ハ願ニ困難セリ  
中友ニ京ニ於テト德急ニ申スルヲ協議中  
ナリ右ノ決断ナルニ付我々ソレヲ貫徹ニ果シ  
カ友ニ及ブベク尽力中ナレドモ行動ニ對シ多少  
ノ考慮授ケ加フルガハ單ニ未成ノ目的ヲ以テ軍  
艦ニ三艘仁川港ニ出派考ル成極止留漢方  
法ヲ大軍艦ニ來着ニ目下漢法中ノ中友  
消息ヲ求ニスルニ果シテハ効力アリ又漢法使  
ニ中友ニ先テ消息ヲ求中ナレモ就中儀式ニ對シ  
既ニ三月五日ノ後ニアサレバ許サレザル  
ベシ

ベシ

とん  
てん

第 1 号

機密第一九號

外部協辦支送件

別冊第 1 号 1 月 5 日 夏 官 政 務 局

在

一 号 押 書 一 件

本及中外部大臣ト会見ノ際同大臣ハ昨夜協辦  
朴鏞和ハ平理院換事ト任セシ李重夏夏燾并  
ト任命セラレタル由申述ハルハ一考シ公此ノ意表シ  
見ヌハ右ノ第一如リ一見朴多形支換禁止ノ  
撤回事件ト宣シ趙大臣ハ朴ガ紳帝ノ命令ヲ付  
ヘタリト云ヒ朴ハ斯レ事ナシト云ヒ而者ハ同確執シ生  
シタルニ原因ス者ニ有之其實紳帝カ朴ニ撤回ノ告  
ヲ傳ヘラレタルハ事實ト推測シ得キモ其後政府  
部内ノ議論紛起ト對シ紳帝ハ右事實ヲ推シ  
消サタル者ヲ之カ為テ趙大臣ハ四面攻撃ノ術ニ

在韓國日本公使館

當リテ韓帝モ多少氣ノ毒ニ感テ起サレハヘク趙王  
右ノ圖シ委細ノ事情ヲ紳帝ニ書差シタルノ為  
分歟、責ヲ朴ニ歸シ斯レハ轉任ノ命セラレ事ト  
察セシ申矣

臣等紳帝カ外部大臣ヲ引見リ好マシハ外部交渉  
事件ト宣シ可否ノ回答ニ裁可リ共ニテ趙王  
ハハ、多知ミシク何如ト大臣ニ直極紳帝ノ裁可  
ヲ作キシ者ヲ之何如トも協辦房ノ其他ヲ通シ  
テ上層シ及ヒ知方リ受テ居リシ況者ニ有之即チ  
本件ハ如キ場合ニ知方リ採ニ消スニ便利ナク致ス  
所ト推測セシ矣

右ノ如キ事情ト有之ハハ細火ノ事ト宣中出入無籍  
輩ノ依リ決セシ外部大臣ノ警備只外面具具ノ備ハ



此に有之少の言中、不秩序亂脈、近頃一層甚  
し、殆ど恣恠し得、一多其事、有之、  
後任者孝重、夏一久、以前元山、管理多し者、  
其後朴泳孝、内郡大臣、多し、除、悔亦多し、  
事、有之、お、回、事情等、多し、通、曉、元、所、下、  
者、多し、通、任、ト、申、ト、存、心、

大具稟及呈請書

明治三十六年一月廿六日

在韓

臨時代理公使 萩原守一



外務大臣 野村嘉太郎 敬

在韓國日本公使館

出

北

海軍部

主幹

山崎宗昭氏へ御返

カサキタ

電送第三號  
昭和二十一年六月六日

昨夕米穀部へ  
先電米三二号へ宛て申上申し  
交里の最長へ宛て申上申し及  
ノ部会との考慮が加つては  
外務省

ハキ下ノ既述の旨に於て  
ニ於ては米穀部へ宛て申上申し  
ラニヤキの商海に於ては  
ニ平和の旨あり申上申し  
リ貴部との努力に依り  
ニハニニニニニニニニ  
日出貴部へ御返

大臣

總務長官

電信課長

主管

電受第百七

號 明治三十二年二月六日 午時一分

發着

小村お務大臣

東京臨時代理公使

カニ於冬野 積理官より本官許に送ハ  
レ本友ノ内差セル書面ヲ閱了セラレリル上  
カ件ヨリ事起リ有る旨ノ好書ヲ賜ウル  
ニ至ラシモトツ意ヒ本官ニ於テお務大臣ト

外務省

お務大臣ノ上ニ成徳侯ノ書ヲ送ル様和  
意アリリルニ付本官之ニ對シ本意  
ハ本官ノ風トシテ書スルトコトナルモ  
殊ニ一部を責むるノ大友ホハ  
シ敬ヒテ系弱及不  
友百ヲ重シセカ  
法論説る件ノ由  
我ハナカノ忍耐  
至リルニ人ヲ下  
業ノ自由ヲ束縛  
夥ニキリテ上  
益大ニ付テハ  
ナキ事ヲ答ヘタリ

中ノ議論  
 二派ニ分カレ村ノ々回ノ思慮を以テ思ハ香ハ卑  
 竟虚喝ニ止マルトノ議ヲ勝リ制シ村令ニシ  
 撥回シテ有之ノ左道ヲ堅リスルノ議高ハ漸ク  
 勢カク失フニ至ラトス本意ニ納ハ居ルカ  
 村ニ自己ノ力ニ至ラトス本意ニ納ハ居ルカ  
 其ニ傷者リルニ疑ハ有リ其ニ害者ハシテ  
 負者リル物動ニ起ル者反村ノ清キナ  
 カシメ救テノ書者ハ亦部曲農高工部  
 ノ門前ノ法ノ樹ケテ居リテ官ニ成禮和  
 解決シ是レヨリ道中右リシテ大友  
 ヲ招テ説スルマツ知メ居レド針為マカ  
 ハシ又メ之増領事カ漢城至平ニ確メタ  
 外務省  
 ルトコトニテハ内割平ノ者止訓令ハ内  
 省大臣ノ訓令ニ其意ヲモリニシテ又訓令  
 清國ノ書ハ傳ヒテ形ノ林止リカ

印  
正  
報  
通

大臣 漢

電信課長

總務長官 藤田

主管

山本

電受第 六八 號 明治 三十二年 二月 二日 午 七時 五分 發 着

小村外務大臣 駐韓公使 齋藤實

力ニ於テ  
公使來訪シテ於九條ニ電  
非セシ旨ヲ示シテ日韓  
交渉國滑ニ進マシムル  
守ル心ヲ得タルモ

外務省

仲重トシテ臨ミテハ恐レザリ殊ニ韓王  
政府が嚴罰ヲ以テ該處ノ流通ヲ禁スル  
ハ其理由ナキ次才ニテアリ且韓王側ヨリ  
依頼モアルニ付自今以前日ノ意思ヲ統  
一シテ百ニ軒進スルノ決シテハ漢  
城判手ノ告示ハ直ニ撤回セシメ各港共  
理ハハ中央政府ヲシテ再ニ禁令ヲ下サシ  
ムガルノ一ノミニテ  
協議シタルニ付本友ニ對シテ彼ノ意思ヲ  
謝シ日韓両方ニ對シテ交渉ノ歴史ニ關シ  
漢城判手ノ告示ハ勿論異議ナク各港監  
理ニ與ヘタル訓令ヲ取消シ韓王政府  
ヲシテ後未斯ニ急迫遠及ノ行為ヲ

ナサレる、謝辞ヲ得んラ必要トスル旨ヲ  
述ヘタルニ彼ニ蒙リ、訓令ニ實地ニ効力ナキ  
ヲ以テ單ニ口頭、訓令ヲ再ヒセザル概略  
セシムル丈ニテ満足センイラホソナリ如  
ハ一應取テ下ノ訓令ヲ奉シカレ上ニ  
ト答ヘ置テ

本件ニ關スル師五政府ノ行動ハ不法極  
マルモノニシテ冬五ニ成ニ同法ヲ表スルキヲ以  
テ此後ニ乘シテ本件ヲ満足ニ解決シ  
且ツ以テ三十九年換害一件モ併セテ  
決ノ端緒ヲ付テ置キテトテ申シ夫レニ  
徳和ノ交際地ニ在リ及非以  
為リ行フヲ必要ト感シ居リ及非以

外務省

トシテハ軍械ニ在リ年製造シタ人基ヲ  
押ユルカガ、曲園ヲ封鎖スル一列ニ  
罪係ナクシテ我ノ意思貫徹ニ有効ナリト  
信スル所斯ニ行ハ行フ以前ニ軍  
ノ兵運動ヲ試ムルハ吾等順序ナレキ  
カ然レ師五政府ニ我ノ嚴重ニ感  
動シテヤ責ニ使テ介シ右様、申出ラナレタ  
ル付、我ニ使シテ示スルキ我レノ満足スルキ  
件法訓示ヲ法ノ前條中及申立、外務省  
江ノ法徴税ノ徴及内務大臣度支部大臣  
及漢城判事ノ懲罰ヲ要求スルモノニ為  
ナルハキカ

大臣

總務長官

電信課長

主管

備

電受第 六九

號 明治 廿年 二月 六日 午後 五時 五分 著 發

小村外務大臣 事務 松本臨時代理の使

才三於五那

法稅方日 來法に於ては彼支土臣に彼  
對し海關稅をトシテ才一那の者ヲ更  
取ルハカラストノ年迄ヲ表シタルに付キ彼ハ  
之に對し彼ト才一那の寫、所シキニ罪シ

外務省

テハ何物ヲ以テスルモ自由ナリ必要ノ場合ニハ何  
時ニテモ之ヲ以テ支拂ハルヘキ事ナリト云言案  
利意中ナリ又彼ニ李案調、例ヨリ裁奪  
才一四那、裁奪者ハ罪シ格義ヲ更  
ケタルに付キ政府自カラ金券ヲ表シ  
ルニ罪照五ノ例ニ非ラスト云ハタリ中央  
銀行に對シ之に之に基リラントイヘウ我レノ  
及非の爲ニ案に彼ハ人基及曲圖局ノ外  
ニ直日糾着スヘキ事南米ヲ案仁決者ニテ  
運送中押つるハ最モ簡單ナリ  
トノ主意ヲ内容ニ申明ケタリ

明治三十二年二月六日發

海軍省

電文



(印)

電文譯

軍令部長宛

京城

福井海軍中佐

廿六年二月五日午後九時十分發信

第一銀行紙幣其他韓國ニ於ケル我國ノ事  
業ハ李容翊策込甚シク妨害ヲ受ツツアリ多ク  
示威運動ナクシテ我勢力ニ大ニ不利益ナラン

伊予 海軍省 宛 去月 宛 送附

海軍



and while the question was pending  
the Bank notes have been freely  
circulated among the people in  
spite of the perfunctory order.  
At the end of the last year when we  
consented to withdraw our  
protest against the reinstatement  
of 李承晩 the Korean Minister  
for Foreign Affairs addressed  
to 李承晩 an official  
note promising to issue fresh  
instruction to local governors  
cancelling the above mentioned  
prohibitory order. But soon after  
Such fresh instruction was  
never issued in fact and the  
case seemed <sup>definitely</sup> satisfactorily  
settled when reaction made  
its appearance with the return  
of 李承晩 from his temporary

trip to 釜山, the ~~the~~ prohi-  
bition was revived only with  
increased energy. Placards  
were posted even in Seoul  
with threats of severe punish-  
ment upon those who acceptors  
of the Bank notes in question.  
Thus we had <sup>again</sup> <sup>been instructed</sup> to protest in  
against the unjust prohibition <sup>in</sup>  
which <sup>is</sup> <sup>now</sup> in violation <sup>of</sup> <sup>the</sup> <sup>treaty</sup> <sup>stipulations</sup>  
not only of the treaty stipulations  
but also of solemn official  
engagement. The above is  
where the matter now stands.  
Rokukoshi

Nomura

R.N.

16. L.  
Jul. 7<sup>th</sup> '13 1-55 pm

Kurino  
Petersburg

電  
信  
掛  
り

10. Since May last year the Branch offices in Korea of the First Bank have been issuing bank notes payable at sight for the circulation among the natives and resident foreigners. This was done under permission of Japanese govt which hold the business permissible under the existing treaty between Japan and Korea. About September last the Korean govt gave instructions to superintendents of the treaty ports to prohibit acceptance of such notes to the people. We of course protested against the prohibition.

送  
付  
了

大臣  
山

電信課長  
片

總務長官

主管  
沼津の座

電受第七〇 號 明治三十二年二月七日 午後五時 分 分 著 發

小村外務大臣 主幹 駐在臨時代理公使

外三於六拜

貴電亦於七拜 示ノ次升了承ス  
度支部大臣ハ漢城判平ニ與ヘタルモ  
ノ同様ニ重刑ヲ以テ報ル者ニ交換ヲ  
禁スル旨ヲ各港監理ニ判令シタルコト

外務省

我領事ノ報告ニヨリ 艦カナルヲ以テ市友  
各港延子ニ對シ必要ノ場合ニ出帆  
ヲシキ次回ノ便松ニテ入金銀料交換スヘシ  
トノ海軍ニ走ラ作ラシメ 艦カナルヲ以テ  
ヘテ債權者ヲ満足セシムル 極指圖ニ  
置テリ 右各港監理ニ對シ 刑罰ヲ付シ  
クニ 訓令ニ 昨日 亦公使トノ 會談中 彼我  
ノ 各 艦カナルニ 對シテ 協議シタルモ  
今ヤ 右 艦カナルニ 付 市友ハ 亦 公使ニ 對シ  
事實ヲ 通知シ 彼ノ 再考ヲ 求ムルニ 當テ

大臣 正

電信課長

片

總務長官

主管

以智彦

電受第七一

號

明治三十二年二月七日

日午六時

分分

小村外務大臣

秘書長代理 使

才三於七郎

李公羽、銀行、岩、事、仲、漸、々、重、大、ナ

ル、~~覺~~、昨日、彼、ヨリ、求、メ、塩、川、通

海、友、ト、曲、園、局、ニ、合、合、シ、才、三、四、編、者、非

外務省

協議ヲ試ムルニ、以、友、ハ、中、友、カ、病、ニ、使、ニ、與、

クルト、同、候、ノ、答、ヘ、ラ、ナ、シ、テ、引、取、リ、タ、リ、志、角

漢、城、判、尹、ノ、告、示、ハ、甚、ク、不、法、ナ、ル、コ、ト、ハ、今

ヤ、務、人、側、一、段、ニ、決、メ、ラ、ル、ニ、至、リ、然、ル、ニ、以、府

ノ、使、齎、ニ、係、ル、~~為~~、事、今、尚、~~ハ~~、横、暴、ヲ、極、シ、

昨、日、ハ、大、洋、ニ、テ、指、東、式、ヲ、其、私、宅、ニ、行、向、

シ、テ、彼、ヲ、罵、言、シ、~~越~~、ハ、辛、ク、シ、テ、被、辱、ヲ、引

取、ラ、シ、ム、ル、ヲ、得、タ、リ

保員

大臣  
田

總務長官

電信課長

主管

田  
田  
田

電受第 1

號

明治廿六年二月七日 午後三時二分

發

外務大臣村野  
日英會社  
田

今四時迄が我館の客に於ては  
此の條約を視て帝玉威候に侮蔑  
スルニ至ラス。經海界の恐慌を惹起シ  
貿易に損害、此の如く斯の如き暴行ハ  
正に威力ヲ以テセイテリス。キ事態ナリト候ス

外務省

右中層議所、決議スル具申ス

能理  
海

上

立紳

ト扶桑伝心記之及

第十号

少抄之凡

時子

電話第五四

三月七日

此書第三回号之及シテ本件ノ解  
決ニ決段ノ間狀ヲ更候セラルルニ由  
カウナルト同時ニ露國ノ関行ノ業ハ

外務省

本件交渉ノ歴史ニ徴シ不十分ナルノ  
コトヲ又斜廷ニ於テ回報ノ訓令ヲ直ニ  
セザルコトヲ露國ニ約束スルノ意アラハ  
既貴訓令ノ撤回ニ意セザル理由モ之レナ  
キナリ故ニ漢地村界ノ告未及ガ迄並  
理ニ照ハシテ訓令ヲ取消シ並ニ將來再  
ヒ同様ノ行方ヲ為サレバ中露ノ保護ヲ  
斜廷ヨリ得ルヲ以テ特旨由是スル事ニ

15

付与下ノ以上ノ之者ヲ版籍月ニ奉件  
解決ノ責カセラルヘシ林ヲ使ハス及  
少事治身ヲ経テ妙々出資田任  
也

外務省

3-1199

0060

大臣 

電信課長

總務長官 

主管

山本 坂田

電受第七三 號 明治三十二年二月八日午後九時五分

小村外務大臣 秘書臨時代理公使


外務省 爲ニ於九雜  
夜公使本館未付、上者五政府、儀備ハ  
最早中友、要求通、米カ、銀以若同  
題ヲ解決スル一、一被レ居ルソ、以テ勅令ヲ  
以テ(銀行券、受授、相互人民等、自由

夕ル(キ)但、肆西政府、租稅等公金ノ收  
入ニ際シ我銀行券ヲ強ヒラレ、ナシト、  
二百ヲ布告シ、日付ニ前訓令一切ヲ撤回スル  
一、シテ基礎トスル一、帝ニ政府、於テ同意  
ナレ、未ニ外部大臣ヲ被授セシメ、本件ヲ  
結着セシメ得ヘシト、法活セ、付中友ハ之、  
對シ勅令ノ形式ハ我、望ム所ナシ、租稅  
公金ニ我銀行券ヲ強テ受取ラシメザル義、是  
マテ強ヒタル事例モナキ、付金用ニ属ス、但  
一、庶國下、訓令ヲ受テタル上返答ス、  
ト答ハ、又事件ハ霞公使中心通リノミニテ  
帝ニ政府、満足ヲ表ス、(キカ責任大臣、  
懲戒ハ或ハ必要ナレ、)トノ意味ヲ答ハ

15



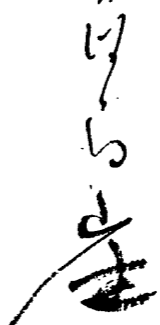
考電外十(攝)訓令、我、満足ス(キ)条  
 件外、掛了上(此)事、ラ加ヘリ、度、支、大臣  
 全、存、根、ハ、李、家、調、次、ギ、本、件、ハ、煽、動、者  
 ナル、ミ、ナ、ラ、ズ、此、年、未、カ、友、ヲ、欺、キ、才、一、銀  
 行、ヲ、シ、テ、十、萬、圓、ヲ、貸、出、サ、シ、ン、タ、ル、ヲ、以、テ、ナ、リ  
 云、公、使、カ、右、様、御、旋、ノ、旨、ヲ、取、ル、ハ、李、家、調  
 ノ、依、頼、ヨ、ル、ハ、明、カ、ニ、シ、テ、且、ツ、廿、七、日、韓、産  
 非、恒、川、通、海、友、ハ、李、ト、存、見、中、日、友  
 ガ、李、ノ、計、画、中、ニ、見、換、者、ハ、今、四、回、  
 歸、廷、ニ、進、後、基、キ、我、臣、民、ニ、於、テ、交、授、セ  
 シ、メ、ガ、ル、結、果、ア、ル、シ、ト、説、ケ、ル、ニ、ヨ、リ、我、公、使  
 ヲ、シ、テ、(張、リ、券、ノ、交、授、ハ、相、互、ニ、行、フ) 云、コ、ト、申  
 出、テ、シ、メ、カ、ル、モ、ト、信、ス、兎、ニ、角、度、公、使、ヲ、シ、テ  
 外 務 省  
 深、ク、本、件、ニ、主、手、入、ラ、シ、ン、件、裁、ノ、功、ヲ、奏、セ、シ、ム  
 ル、ハ、彼、ノ、機、力、ヲ、加、フ、ル、ニ、當、ル、ヲ、以、テ、本、友、ハ、此、日  
 既、ニ、陛、下、ニ、内、奏、シ、外、ニ、公、使、臣、ノ、件、裁、ヲ、待  
 タ、ズ、未、カ、キ、本、件、ノ、解、法、ヲ、お、ス、ノ、利、益、ヲ  
 説、ケ、リ、時、々、模、様、ハ、我、ノ、要、求、貫、徹、ハ、  
 十二、分、ノ、見、込、アリ、依、テ、病、公、使、ニ、對、シ、テ、租、税  
 及、公、金、云、ヒ、テ、省、キ、料、金、ヲ、免、セ、シ、ム、一、及、ヒ  
 右、十、八、日、攝、政、訓、示、ノ、保、障、ヲ、得、ル、一、ノ、外  
 成、ル、ハ、ク、尙、局、大、臣、ノ、懲、戒、ヲ、求、ム、ル、意、ヲ、以、テ  
 回、答、セ、ン、ト、ス、可、右、内、訓、示、ヲ、情、フ

大臣 

電信課長

總務長官 

主管



電受第七四

號 明治廿六年二月八日 午後九時四分 發

小村外務大臣 主幹 駐原臨時代理公使

中四十號

夜公使、活、控、ハ、五、島、山、病、五、頃、車、  
一、千、回、手、形、ラ、日、地、中、一、派、以、ニ、テ、日、本、  
債、幣、ト、シ、テ、ハ、交、取、得、サ、リ、シ、事、実、ア、リ、ト、  
就、ニ、ハ、出、下、リ、見、付、本、店、對、立、紳、

外務省

五、各、支、店、七、ハ、充、分、ノ、準、備、整、ツ、甚、當、ツ、ル、  
外、外、五、人、ニ、ハ、日、本、債、幣、ノ、夜、ス、概、  
最、速、可、也、存、心、シ、テ、請、フ、

才人

才人

才人

才人

才人

才人

才人

才人

外務省

3-1199

0064

大臣

電信課長

片

總務長官

片

主管

坂田

本負

電受第 七號 明治卅一年二月八日 午前二時五分 發着

外務大臣

京城日本人商會事務所

韓國政府の第一銀行券拒絶告示、  
件、公約の破、我國の侮蔑、帝國の威  
信、関ス強硬談判遂行の速ニ事件、  
解決ヲ望ム

外務省

秘

電報

二月八日午後一時五十分東京發  
五時五十分分發

李

野津少佐

參謀總長宛

韓國政府ハ人民ニ對シ我第一銀行手形ヲ通用スヘカ  
ラス之ヲ授受スルモノハ嚴罰ニ處スル旨ヲ告示セタリ  
之ト同時ニ一部ノ人民ヲ便済シ之ヲ勵行スルニ至リ  
韓人ハ陸續トシテ第一銀行ニ至リ手形ヲ引換テ求  
メソツアリ我高民ノ貿易ヲ阻滞シ莫大ノ損害ヲ  
來スノナラズ日本銀行券ノ信用ニ是影響ヲ及スハ  
自然ノ勢ナリ帝國公使ハ韓國皇帝ノ行動ハ兩  
國ノ修好條約ヲ無視シタル處置ニシテ事態ノ關  
スル處重大ナルノミナラス高民ノ損害ヲ被ルル亦  
タ莫大ナルヲ以テ其損害ヲ積算シ賠償ヲ求メ  
且フ韓政府ニ於テ速ニ反省セサルニ於テハ已ムテ

得ス之ニ對シ官有財産礦山土地官衙漢茶糖  
等ノ專有ヲナスヘキ所置ニ當ツル上日ヲ聲明シテ  
目下ノ情況ニ觀察スルニ李容容胡ハ第一銀行  
手形ハ飽迫排斥スルノ決心ナリナラス  
大官ハ多モ此決心ヲ唱ヘ居ルヲ以テ我提議  
對シ速ニ満足ナル結果ヲ得ルハ甚々困難ナラン  
ト思考スル此際我政府ハ帝國公使ノ聲明ヲ現  
實ニスルノ決心ヲ持ツテ斷然タル處置ニ當テサル  
ニ於テハ益々帝國ノ威信ヲ失墜スルニ至ルハ本  
官ノ深ク信スル所ナリ

為雷

遅延

電報

二月八日午後一時五十分東京發  
五時五十分着

野津少佐

電文不明ノ所アリ  
遅延ス

參謀總長宛

韓國政府ハ人民ニ對シ我第一銀行手形ヲ通用スヘカ  
ラス之ヲ接受スルモノハ嚴罰ニ處スル旨ヲ告示シタリ  
之ト同時ニ一部ノ人民ヲ便済シ之ヲ勵行スルニ至リ  
韓人ハ陸續トシテ第一銀行ニ至リ手形ヲ引換テ求  
メスニアリ我高民ノ貿易ヲ阻滞シ莫大ノ損害ヲ  
來スルナラズ日本銀行券ノ信用ニ追及シ及スル  
自然ノ勢ナリ帝國公使ハ韓國皇帝ノ行動ハ兩  
國ノ修好條約ヲ無視シタル處置ニシテ事態ノ開  
スル處重大ナルノミナラス高民ノ損害ヲ被ルル亦  
シ莫大ナルヲ以テ其損害ヲ積算シ賠償ヲ本メ  
且テ韓政府ニ於テ速ニ反省セサルニ至ルハ已ムテ

得ス之ニ對シ官有財產 礦山土地官衙演業權  
等ノ專有ヲナスヘキ所置ニ當ツル上日ヲ聲明シタリ  
目下ノ情況ニ觀察スルニ李容弼ハ第一銀行  
手形ハ飽迄排斥スルノ決心ナルノミナラス政府  
大官ノ多ク此決心ヲ唱ヘ居ルヲ以テ我提議ニ  
對シ速ニ満足ナル結果ヲ得ルハ甚ク困難ナラン  
ト思フ此際我政府ハ帝國公使ノ聲明ヲ現  
實ニスルノ決心ヲ持ツテ斷然タル處置ニ當テサル  
ニ於テハ益々帝國ノ威信ヲ失墜スルニ至ルハ本  
官ノ深ク信スル所ナリ



正

主帥

少輔 宗正卿 宗正少卿

宗正卿

少輔 宗正卿

宗正卿

宗正卿 三十九号 宗正卿 宗正卿

宗正卿 但し 宗正卿 宗正卿 宗正卿

宗正卿 宗正卿 宗正卿 宗正卿

外務省

宗正卿 宗正卿 宗正卿 宗正卿

宗正卿 宗正卿 宗正卿 宗正卿

宗正卿 宗正卿 宗正卿 宗正卿

宗正卿 宗正卿 宗正卿 宗正卿

宗正卿 宗正卿 宗正卿 宗正卿

宗正卿 宗正卿 宗正卿 宗正卿

宗正卿 宗正卿 宗正卿 宗正卿

宗正卿 宗正卿 宗正卿 宗正卿

正

正

五  
三月九日  
五



一設ノ認ケル如クナリ最モ外務大  
臣ノ執事ハ外務省ハ度スルナリ  
キコトハ<sup>外務省</sup>外務省ハ度スルナリ  
セウニシ中道七十キナリナリ  
念附カス

外務省

3-1199

0070

第二十五号

上野

少将小治河川

少将之氏

吉子

林三侯は昨夜出度十日

若りの十日徳山ヨリ

砂ら一果也

電送第五六  
三月九日

印田

本多

外務省

3-1199

0071

大臣

電信課長

17

總務長官 珍田

主管

ひらき

電受第七八

號明治廿六年二月九日午後八時三分

小村外務大臣

秋篠宮親王使

中田於三郎

銀行券問題ニ係リ陛下ニ越来式ヲ外  
部大臣ニ委任セシメントレタルモ彼ノ委任  
ノ要件トシテ銀行券問題ニハ法數稅  
關及ニ任公使派老ニ昇スル全權ヲ委

外務省

任セラル、一ヲ求メタルカ、更ニ李道平ヲ  
シテ就任セシムル一ニ内定シタルモ、祿員高  
等ニ李道平ニ迫リテ銀行券問題  
ニ昇シテ一歩モ日歩ニ譲ラサル一ヲ求  
テ、終ニ之ニ応シタリト云フ之カ、カ李  
道平ニ未ダ就任ノ通告ヲ發セズ、又  
友ニ陛下ヨリ降旨、沈老セラル、各使ニ對  
シ陛下ヨリ勅命ヲ以テ我々満足スル一ニ係  
件ヲ承認スル一ヲ命セシサル以上ハ外部  
大臣トシテ交渉ハ畢竟世用ナル一ニ非  
外ニ使臣ノ仲裁ヲ俟タズ我軍艦到  
着前ニ事件ヲ解決スルノ必要ヲ感  
内中セリ

英王公使兵舟友ヲ来訪シテ我ノ措置  
 同意ヲ表シテ四ノ事端ハ李家訓カ意  
 玉ノ援助ヲ受ケテ引起セルモノシテ此  
 後ト萬モ李ト英人トノ關係上種々ノ  
 牽涉ヲ生スルヤ暇ナルニ付キ日本政府ガ今  
 四ノ公使正大ナル要求ノ志ラシガレテ機ト  
 シ李ニ(ダウド、レウソン)ヲ典ハルハ列王ノ希  
 望スル所ナリ夫レニハ軍艦ノ糾着ヲ待テ  
 人差及在南海ノ甲種ヘラおスノ最ニ有  
 効トスル旨ヲ請信セリ此等ノ事ハ申  
 上リ又曰公使ハ於此九節を非未此  
 意ニ使ラシテ事件ノ仲裁ニ任テ努力  
 ラ増サシメサル様致シタシトノ切實ノ意見  
 外務省  
 同意シ直チニ曰様ノ主意ヲ陛下ニ内奏  
 スルヲ約シタリ

電信課長

電信課長

大臣

總務長官

主管

基

電受第七九

號明治廿九年二月九日午後八時四分

發着

小村外務大臣

在任

秋原時代理之使

第百四十四號

李道宰、外務大臣就職、公文ヲ唯

今本官ニ送り、彼ガ本官ノ要求セル

如、銀行券問題解決、勅命ヲ

帶、居ヤ否ヤ不明、ト、同時ニ陛下ヨリ

外務省

本官ニ遣ハセ、嚴參理官ノ言、據レバ

李、本官要求ノ勅命ヲ帶、居、ト、如シ

依、李ノ就職公文ニ對シ、ハ、彼ガ勅命

ヲ帶、ヒ、本官要求、直リ、銀行券問題

解決、ト、上、ア、ラ、サ、レ、バ、外務大臣、ト、シ、テ、

交渉、ヲ、謝、絶、ト、旨、ヲ、回、答、シ、テ、

（印）

照会

15



とん  
とん

立紳

新嘉坡の如き

由村大臣

生

電報第... 三月十日

要旨付

15

晴号(北の如き)

光電の如き、新嘉坡の如き

道に及ぶ、馬山、河、銀、山、レ、バ、リ、換、平

銀の支店にナリ、釜山、レ、バ、リ、換、平

外務省

備の十分、ニ、テ、安、ク、以、テ、活、の、事、矣

ア、レ、キ、ト、下、ニ、ナ、リ

大坂

在籍

森宮信太郎

小村大佐

五五

電送第六〇番  
明治二十二年十月十日  
森宮

此長

才二三号

未教中ナリテ後ニ更

海軍兵部事務官森宮信太郎の艦

横濱支店鋪通順之日途中之川

寄港スルヤ  
森宮信太郎  
外務省

外務省

3-1199

0077



清子

支

来、号

在、金、幣、局、印、事、

村大臣

明治三十三年三月

林公使、本日午後、徳山、板館、ノ、宴、終、之、砂

ニ、テ、政、任、入、途、況、地、ノ、立、寄、ル、キ、ニ、付、電、報、

同、公、使、ノ、件、ニ、付、

吉、出、立、後、報、り、書、事、件、ノ、経、過、左、ノ、如、

二、極、公、使、本、月、八、日、秋、原、代、理、公、使、ヲ、訪、問、シ、韓

政、府、内、ノ、議、論、ノ、三、日、早、ヤ、我、國、出、産、リ、建、立、セ、

外務省

件、ヲ、解、説、ス、ル、ニ、一、部、ニ、指、ス、以、テ、報、之、リ、以、テ、

以、書、ノ、旨、ヲ、控、ル、也、民、間、ニ、自、由、々、々、中、ニ、ト、但、シ、

韓、政、府、ノ、租、務、算、公、金、ノ、収、入、ニ、改、メ、我、國、ノ、

出、産、ヲ、課、ス、ル、ト、シ、ト、レ、ノ、旨、ヲ、布、告、シ、同、

時、ニ、ソ、ノ、訓、令、一、切、ヲ、撤、回、ス、ル、ヲ、其、基、礎、ト、ス、ル、ニ、

ニ、事、由、政、府、ニ、概、テ、同、意、セ、シ、ハ、速、ニ、外、部、大、臣、ヲ、

就、聯、ロ、シ、ト、シ、件、ヲ、結、算、セ、シ、メ、以、テ、一、ト、ヲ、決、

シ、ケ、ル、旨、電、報、ヲ、リ、タ、ル、ニ、付、報、令、ニ、依、布、シ、可、也、

村大臣





正任大  
外務省

大臣

總務長官

電信課長

主管

電受第 八三 號 明治三三年二月一日 午後七時五分 發

小村外務大臣

三韓 正任臨時代理公使

第百十五號  
李道正年ハ昨白公文リ度ニ就職シ通知シタル  
後直々ニ病トシテ釋ラ見不之シ彼カ福慶高  
等ニ言續リ據ラ居ルト具ハ一昨白以來官中  
ニ於テ我リ行動ハ案外ハ華國ナラス今何ノ交渉  
ニ結局虚唱ヨリテ親勝リ初シタルト信セラル  
英國公使ハ内リ官中ニ運動シテ本官ノ態度  
ヲ接シ又兩路公使ハ今ハ我ニ要求ノ十二分ニ理  
由アリ其ノ態度ノ真ニ華國ナルヲ信シ自家  
ノ利益ヲ我ニ要求ノ母國ニ徹シ計リ居リ本  
官ハ非常ニ尽力シテ其ノ難航到着止ハ本件  
ノ解決ハ今ヲ要スル

外務省

大臣

總務長官

電信課長

主管

庄

電受第八五

號

明治廿六年二月十一日午後七時五分

發

小村外務大臣

在韓秋原臨時代理使

第四十七號

昨夜以來韓廷ノ銀行券ニ對スル態度ハ大ニ我ニ利益見傾向ヲ有シ本朝李容弼ハ益川通譯官ト會見シテ我ノ條件ヲ承知センコトヲ求メタリ付本官ハ

外務省

閣下ノ訓令通りノ條件ヲ示シ急遽ニ事  
件ヲ解決センコトヲ求メタルニ他ハ本夕迄ニ  
必ス解決センコトヲ誓言シ且今午決中  
ニアリ又露公使ハ本朝本官ヲ來訪シテ  
帝國政府ニ於テ正當ナル反報行為ヲ  
執ラントスルニ方リ自今ハ韓廷ノ非行ヲ  
制シ得サントキハ自今ノ露度ニ當ラズテ  
是非トモ韓廷ヲシテ我々求通リ勅令其  
他ノ文書ヲ裁シテ滿廷ノ解決ヲ猶豫  
ナク為サシムベシトテ詔勅案ハ外部ノ公文  
案ヲ示セリ兩案共ニ彼ノ過チヲ改メ我々  
利ヲ十分ニ確認スルモ且勅令ノ未段  
ニ在勅令ハ韓國政府自カラ該銀行

若シ授受スルノ意ニ非ラズ昂チ度支部  
 ノ公金ニハ必ス韓債ヲ以テ上納スレト、  
 文字アリ亦外部ノ公文案中ニモ稍々  
 ナ意味ニテ同様ノ文字アリ之ニ對シ  
 譯官トモ協議スル具ハ韓廷ノ意思ヲ  
 充クシタルニ非ズ政府ハ斯ノ如キ詔勅  
 以テ禁令令ラズ概面スルトキハ我ヨリ公金ノ  
 授受ハ必ラス銀行券ヲ以テスルヲ自ラサレニ  
 至リ若シハ人民之ヲ誤解シテ銀行券  
 ヲ以テ納税スルコトヲ韓廷ニ迫ラントスルヲ憂  
 フニ止マンモノ、如シ就テハ帝國政府ニ於テ  
 存件ノ解決ヲ俟カニセンコトヲ欲セラハ、ニ於テ  
 ハ已ラ得ザル場合ハ右詔勅并ニ公文  
 外務省  
 ヲ以テ平和ノ旨ヲ結フコトヲ本官ニ委  
 任セラレタレ本官ハ右様文字ノ削除  
 ヲ努ムベキモ右理由ノ外ニ現ニ韓廷  
 府ガ韓債ヲ以テ税金ヲ算出シ居リ且  
 ツ日債ト韓債トノ相場異同アル以上  
 目下ノ處直ニ税金トシテ銀行券ヲ受  
 取ラレムハ實際ニ行ヒ難ク且ツ韓廷  
 甚シキ不便ヲ與フル故チ付後米銀  
 行券ノ信用十分ナルニ至リ韓債ノ相  
 場モ一定スルトキハ銀行券ハ自然ニ公金  
 トシテ授受セラレムニ至ルハ疑ナシ殊ニ  
 トシテモ政府自カラハ不便ノ為ニ受取  
 トラフ以上ハ我ハ韓政府ニ對シ之ヲ強  
 義ニ

ル澤ニアラガレバナリ  
情ア 右を急は煙訓ヲ

外務省

3-1199

0084

大臣

總務長官

電信課長

主管

Handwritten signature and stamp

電受第八七號 明治三十二年二月一日午後二時二分 發着

小村外務大臣

駐米領事代理公使

外部大臣ハ本日公文ヲ以テ銀行券問題ニ関シ自ラ本官ニ對シ文涉ノ任ニ當ル可キ者ヲ通知シヨリ本夕我公使館ヲ來訪シタルモ空手ニ本官返リヨリ報知ハ異ナリ勅令ノ形

外務省

式ヲ以テ銀行券流通ノ自由ヲ確保スルノ必要ヲ認メ且ツ本官自付本官、喫會(乃テ換會)ヲ要求シ至當ノ抵償ヲ取ルニ至ラントスル者ノ聲(即)ヲ先以テ撤回セシコトヲ求メラルニ付本官ハ之ヲ拒絶シヨリ夕部大臣ノ斯ル態度ハ彼カ程自高キ等、莫クハ九言讀マ守ル必(即)ニアルカ若クハ此際我ニ哀新シラ多ク我ノ条件ヲ緩セシメ以テ自己ノ高目ヲ保テントスル出ラタル者ナル可シ本官ハ昨日正午外部ニ於テ會見スルコトヲセリ官中ノ議論ハ我要求ノ全部ヲ承認スルコトニ一致セルハ確カナル如シ



11-



L

Kurino Petersburg  
Hagiwara Seoul

庚辰  
ハ  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
廿一  
廿二  
廿三  
廿四  
廿五  
廿六  
廿七  
廿八  
廿九  
三十

11. Russian Minister to Japan  
called on me ~~12/11~~ = 11 + - 日  
and stated that in reference  
to the First Bank notes question  
in Korea he had been in-  
structed by C<sup>t</sup> Laurdoff to  
communicate to me in a  
friendly way that the C<sup>t</sup> hoped  
for the adoption of a moderate  
course and amicable settle-  
ment of the question. I replied  
that while the Japanese Gov<sup>t</sup> were  
desirous to avoid if possible  
any contingency which might  
necessitate recourse to strong  
measures they were resolved  
to insist that the Korean Gov<sup>t</sup>

Sent Feb. 12 1903 11- 40 A.M.

should withdraw the interdi-  
ction as previously promised.  
I added that if Li Gouk  
who was recognized as leader  
of the movement against the  
Bank notes & could be persuaded  
that he could not count upon  
Russian support it would  
no doubt contribute to ami-  
cable solution of the question  
The above for your information

Komura

工

可也  
既經

支那

ト其奈時心は深き以 少少之

暗子(未定)

半電中四七号ノ其ノ政ノ人氏

あり及ト云フ以上を以て其ノ傷トキハ

晴ニシテ其ノ電ハ所謂斜進ノ意ハ

全然北東ニ属シ道徳上事案上共

外務省

ト有りト云フコトハ非不也但ト云フ後リハ

トハ其必要ナキニテナラズ亦テ誤解ヲ

来シ銀行事務法通ノ為メモ間接ニ不利

ノ結果ヲ生スルナキヲ保スルカニ加フニ

此際斜進ノ責任ハ其不法行為ヲ

以テ負ヒ之リ一級人ト云フニ在リ




ト云フ勅令ハ其國ニ依リテ起シ

自己ノ目的ヲ附加スルカウ物ハ勿論ナ

電送第三  
二月十三日  
午後三時

外



大臣   
電信課長   
主 管 

電受第九〇 號 明治三十二年二月三日 午後七時五分 發

小村外務大臣 事務  
外務省 事務

本及外務大臣ト、各員ニ於テ、  
其ノ結果ヲ以テ、  
決メ、  
一、一月、  
二、  
三、  
四、  
五、

訓令ハ、  
及、  
示、  
代、  
本、  
相、  
ヲ、  
ル、  
且、  
意、





大臣

總務長官 露田

電信課長

主管

小村

電受第九一 號 明治三十二年二月一日午後八時一分 著

小村外務大臣

三務大臣時代際不使

第五十三編

李容訥が塩川通譯官に内密に語ルトコロニ  
テハ露公使ハ作今韓廷に對し馬山浦ノ割讓  
ヲホメツ、アリ韓廷ノ勢力家ハ多數之同意  
ニ居ルモ李一人之反對セルト右ハ李が第一

外務省

銀行券對ス我解決条件ヲ可成輕クシテ  
連ニ平穩ヲ復シメシトノ希望ニ加ハ、求ヘラルト  
コロニテ甚ク信シ難キモ過日來露國ハ借款条  
款トシテ租稅ノ取扱ヲ止メ馬山浦ノ租借ヲ申  
込ミタルトノ說野津少佐ノ案債ヨリ傳ヘラレ又  
兩三日前露公使ハ我對韓廷トノ爭議ニ集ジ  
或ル要ホツ持テ出シタリト云ヘル風競アリ李  
ノ談話ハ人王ク懸引アリト見ルバカラス大臣ハ其  
想ヲ探究スルニ勉ムベキモ今電報ス

明治廿六年二月十二日 陸軍省 陸軍部

機密第二九號

大臣

手書

第242號

本日言次電報一五号ニシテ一八号ノ一  
拂方返通ニ付テハ 補送ノ始末ニ付テハ 補送ノ  
大ニ付之カガ 為テ一八号ノ一ニ付テハ 補送ノ  
補送ノ責任ノ歸スル事ヲ言明シ 意見更  
禁止令 補送ノ事ヲ力シテ 中ニ付テハ 補送ノ  
直ニ其趣ヲ別紙ニシテ 補送ノ一八号ノ一ニ付テハ 補送ノ  
智明ニ付テハ 同付ノ該公文ヲ 補送ノ封古トシテ 補  
希ニ内閣ニ付テハ 公文ヲ 補送ノ一八号ノ一ニ付テハ 補送ノ  
二八号ノ一ニ付テハ 補送ノ一八号ノ一ニ付テハ 補送ノ  
申及ニ付テハ 補送ノ一八号ノ一ニ付テハ 補送ノ  
公文 寫差道ニ付テハ 補送ノ一八号ノ一ニ付テハ 補送ノ  
進矣 報告

明治廿六年二月六日

主韓

臨時代理公使 荻原守一



外務大臣 野村吉三郎 殿

在韓國日本公使館



公文第一、辨馬

以書翰致放矣陳者我芳一銀行一莫拂房也  
萬國善通ノ高事慣例、從且帝國政府、表重ナ  
心此指ノ下、我ノセシムル、有之付其日守貨  
幣ノ代表者、於以以治在中、日韓修好條規  
附錄芳七款ニ依リ、貴我兩國同、自由ニ授文  
セリル可キモノ有之、將又法考ガ商取引、一程先矣  
ニ於テ、以治九年、日韓修好條規九款ニ依リ、  
國友權ハ之ガ流通、授文ニ對シ、何等干涉ナカ  
カラズ儀、布之少安、窮キ、本年九月、貴國政府ハ  
此等條規、以文ヲ無視シ、各港此理、對シ、該券  
流通禁止、異允、訓令ヲ差セシムル、事起リ、尔来  
最月同貴我兩國同、滋端リ生ズ、事ハ、付本使

在韓國日本公使館

ハ答回、爰社復リ、越外相ニ對シ、事態ノ真理  
ヲ説示シ、且貴國大皇帝陛下ニ對シ、答回内奏ヲ  
送リ、先結果、本年末、於テ、越外相ニ稅稅務  
司ノ公平ニ意見ヲ徵セシメ、先上、本年一月、八日附リ  
以テ、各港此理、對シ、前訓令ヲ撤廢シ、同付、該券  
流通、異允、至當ノ便宜ヲ興リ、可キ旨、訓令ヲ差セ  
之、且一月十日、附書筒ヲ以テ、同大臣ニ奉存、對シ、  
本結局、以テ、報被、改、以テ、貴大臣、物下ニ於テ  
既、以テ、了、意、相、成、以テ、安、ト、存、以テ、各港、駐、在、帝  
回、欽、事、ノ、報、ニ、依、以テ、貴國、各港、此理、前陳、ノ、解  
禁、訓令ヲ奉行セシムル、事實、下、ノ、事、ハ、漢城、判  
尹、頃、日、更、ニ、訓令ヲ差シ、韓民、該券ヲ授文ス  
ル者、表刑ニ受セ、ル、可キ旨ヲ、該告シ、且漢城市

内ニ於テ高氏ヲ使曠シ該券ノ戻進ニ及對セシム  
 ル爲メ程々ノ示威的行劫ニ出ラシ居ル趣業知悉  
 ヲ本使ノ意ト意外トスル意ト有之  
 抑モ該銀り者既ニ條約上ノ保障下ニ在ラズ  
 貴國外部大臣ノ公約ニ據リ何等障害無ク流  
 通スヘキ筈ト有之少多如前述貴政府ノ妨害手  
 段一則條約ヲ監視シ且ツ國家ノ公約ヲ破壞セ  
 ラルモ有之本使ニ貴國政府ノ没責任ニ吃驚  
 ス外無之ハ下保令ヤ理論ヲ以テ貴國政府ニ對  
 抗スル無益ヲ自覺シ付本使ニ帝國政府ノ  
 訓令ヲ帶有シ貴國政府ニ對シ左ノ通智明諭ハ  
 一 第一切リテ廢禁ノ公約ヲ行深無ク廢ルセ  
 ラレモ於テ貴國政府ノ條約違反並ニ公約  
 無視ノ行為ニ對シ及報トシ帝國政府ノ極  
 限極ノ措置ヲ取リ且之ヲ生る可キ貴我兩  
 國間ノ事端ニ至シ一切責任ヲ貴政府ニ歸ス  
 ル事  
 一 公約不履行アリ生スル第一切リテ換案ヲ積算  
 シ之ヲ賠償シ貴政府ノ要求シ時宜ク修費  
 政府及有ノ財産(金山、土地、船舶、廠宇)  
 ヲ担保トシテ差押ニ若ク條約上表我臣民  
 ニ准許セ共通商考漢業上ノ特權(未  
 開港場同航船舶、航海權、或ハ出港業等)  
 平島三邊ノ沿海漢業特權)ヲ專行スル  
 事可キ事  
 大日本帝國政府敬告

在韓國日本公使館

明治三十三年二月四日

臨時代理公使 萩原守一

外部大臣閣下

此等新任外部大臣李道宰此等就職公文書  
悉く之より以り本公文書無様其内容より記入され  
外部大臣ノ官職ニ宛て送付の旨有之付本  
付了知を前記す

在韓國日本公使館